

【関係者各位】

宇津救命丸株式会社

創業426年の歴史をもつ家庭医薬メーカー「宇津救命丸」の本社が64年ぶりに創業の地へ
県内企業と連携し新商品開発やグローバル展開支援、地域活性化を目指す

宇津救命丸、創業の地・栃木県高根沢町へ本社移転

宇津救命丸株式会社(本社:東京都千代田区神田駿河台3-3 代表取締役社長:宇津善行)は、2023年4月12日に現在自社工場のある栃木県塩谷郡高根沢町上高根沢地内に本社を移転することをお知らせいたします。

本日栃木県庁記者クラブにて、高根沢町加藤公博町長と、当社社長が会見しました。

移転後は、新たな試みとして、県内・町内の企業と連携した新商品開発や、自社のもつ海外販売網を活かして栃木県と海外を繋ぐなど、地域経済の活性化への貢献を目指します。また、新本社敷地内には寛政2年(1790年)建立の観音様が祀られている「宇津観音堂」や総ケヤキづくりの「宇津薬師堂」(高根沢町指定文化財)など、当社の歴史とともに様々な歴史的建造物もあり、地域の観光資産として発信することで、高根沢町の地域活性の一助となれるよう努めてまいります。



(写真)2023/02/27 高根沢町との本社移転共同記者発表の様子

今回の移転は、現高根沢工場の敷地内の建物を改築し、現東京本社の(営業、総務、マーケティング、輸出など)機能を全て移します。現本社は移転後閉鎖いたします。新本社では、商品企画部門や研究、新規事業開発を中心に行ってまいりますので、地域人材はもちろん、UターンやJターン、東京などからの移住者などの雇用も今後検討していきます。

移転の背景：コロナ禍で地域との共生、地域への貢献を強く意識、リモートワーク浸透が追い風に

当社の東京本社では、2020年から続くコロナ禍において、感染拡大当初からリモートワークに移行。2021年には中国で合弁会社を設立するなど越境ECや輸出も本格化し、本社機能に関わる社員が在宅・会社に関わらずオンラインで仕事ができる環境が整ってきました。また、コロナ禍で地域経済の低迷が続く中で、創業地の高根沢との共生、地域への貢献を強く意識するようになりました。

そこで、昨年の創業425年の節目に合わせて社長が交代したことをきっかけに、本社移転が実現しました。創業の地・栃木を拠点にしながら地域と共に成長し、400年以上続く歴史をさらに継承してまいります。

宇津救命丸株式会社 代表取締役社長 宇津善行のコメント

創業者である宇津権右衛門は、「人々の健康に役立てたい」という一途な思いから、周囲の人々に無料で薬を提供する「施薬」という考えを築きました。その思いは、薬だけではなく観音堂や薬師堂の建立にも表れています。この、人々の健康に貢献するという、創業からの理念をより意識し、継承し、更なる飛躍につなげるためにも、高根沢町の地域に密着した企業となり、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

栃木県高根沢町 加藤公博町長のコメント

私は高根沢町の行政に携わる上で、本町にルーツをもつ宇津救命丸が、400年以上「施薬」という理念を持ちつづけながら子育てに携わってきたことを意識してきました。そして、本町で産み、育てるという子育て環境をつくるべく町政に関わってきました。

宇津救命丸が64年ぶりに本社を移転する決断を、町としても大歓迎しています。今まで以上に、町や県と企業とが連携を深める場をつくっていただければと思います。

【宇津救命丸株式会社基本情報】

創業から変わらず「人々の心身の健康に貢献すること」を理念に、1597年に現在の栃木県高根沢町で創業した家庭常備薬メーカー。社名にもなっている「宇津救命丸」は、約400年前に作られた天然由来の生薬で出来た、お子さまの夜泣き・かんむし・食欲不振に効く薬です。現在は、子供用風邪薬やスキンケア用品など15種類以上の医薬品、医薬部外品等を開発し、日本全国のドラッグストア・薬局・薬店等で販売しています。また、一部商品は中国やベトナム等にも輸出しています。

所在地	栃木県塩谷郡高根沢町大字上高根沢 3987 番地 (現本社:東京都千代田区神田駿河台 3-3)
敷地面積	4,800 m ²
創業	1597 年(慶長2年)
会社設立	昭和6年2月 26 日
資本金	48,000,000 円
事業内容	一般用医薬品及び医薬部外品等の製造・販売
出荷地域	日本全国および中国、ベトナム等
企業理念	初代宇津権右衛門の信念である「施薬」の精神「人々の心身の健康に貢献すること」

【本プレスリリースに関する問い合わせ先】

宇津救命丸株式会社 管理部 マネージャー 岡善行

メール: oka@uzukyumeigan.co.jp 電話: 028-675-0361

===ご参考資料===

【商品紹介】

宇津救命丸や宇津こども鼻炎顆粒、宇津ベビーローションなど、全 17 種類の家庭常備薬や、スキンケア商品などを開発、生産に取り組んでいます。近年はコロナウイルスなどの影響で、軽度な疾病は自分たちで手当てる、セルフメデューケーション、セルフケアという意識の高まりも追い風になっております。また中国を初めとする東南アジアでは日本消費財の人気も高まり、当社の宇津ももの葉ベビーローションは中国でもトップブランドに成長してきています。



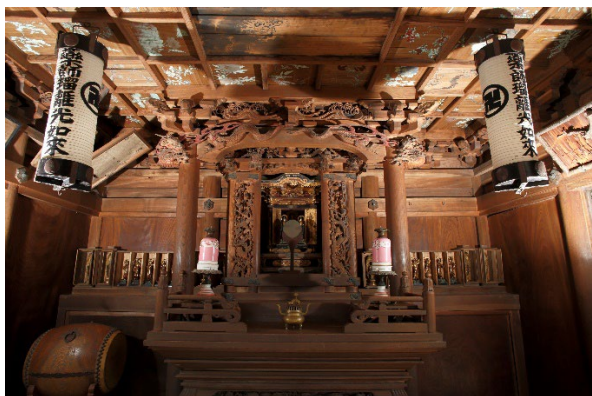
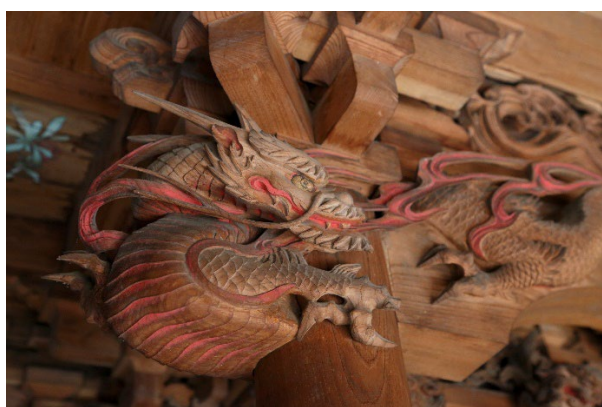
【会社の歴史】

1957年	慶長 02年	初代宇津権右衛門が野州高根澤西根郷に帰農後、宇津の秘薬救命丸を創製
1906年	明治 39年	現在の問屋ルートに乗せて全国発売
1919年	大正 08年	東京神田に出張所開設
1931年	昭和 06年	法人組織としての「株式会社宇津権右衛門薬房」に改組
1955年	昭和 30年	「株式会社宇津権右衛門薬房」を「宇津救命丸株式会社」に社名変更
1959年	昭和 34年	本社を東京都千代田区神田駿河台に移転
1961年	昭和 36年	現工場落成
1984年	昭和 59年	「宇津こどもかぜ薬」発売
1988年	昭和 63年	第 18 代宇津善博 代表取締役社長に就任
2012年	平成 24年	宇津救命丸ヘルスケア 100%子会社設立
2016年	平成 28年	中国への越境 EC 販売をスタート
2021年	令和3年	青木香港控股有限公司と合併会社、宇津香港控股有限公司ならびに 100%子会社である宇津健康産業広州有限公司を設立
2022年	令和4年	宇津善行が代表取締役社長に就任
2023年	令和 5年	本社を栃木県高根沢町に移転(予定)

【新本社敷地内の歴史建造物 一例】

1. 宇津薬師堂

江戸時代に人々が病苦から救われることを願って建立され、栃木県高根沢町の指定文化財となっています。総ケヤキづくりで日光東照宮とほぼ同時期の建物で、様式も似ていることから、東照宮を建てた宮大工がこのあたりに住み着き、建てたのではないかとされています。



2. 宇津観音堂

建造物の中で最も歴史のある観音堂。寛政2年(1790年)に建立された観音様が祀られています。



3. 宇津資料館

宇津救命丸の長い歴史に関わるいろいろな史料を集めて展示しています。地元の小学校では、宇津資料館と宇津薬師堂の見学が4年生の授業の一環になっています。

